

## 第 8 回伊勢原市都市マスタープラン検討部会 会議録

〔事務局〕 都市部都市総務課

〔開催日時〕 平成26年2月24日（月）午前10時～正午

〔開催場所〕 伊勢原市青少年センター2階 工芸室

〔出席者〕

（委員） 加藤仁美（座長）、遠藤新（副座長）、川崎一泰、木村剛、藤田成吉、三箸宜子

（事務局） 藤堂都市総務課長、中島土地利用計画担当課長、飯田都市総務課主幹ほか都市総務課2名

〔公開の可否〕 公開

〔傍聴者〕 なし

### 《会議の経過》

1 開会

2 議題

（1）都市マスタープランの全体構想骨子案について

3 その他

4 閉会

〔内 容〕

○ 議題

- ・加藤座長により議事を進める。
- ・各委員の主な意見、質疑応答は次のとおり。

### 【事務局説明】

座 長 それでは、どなたか御質問のある方はいらっしゃいますか。

委 員 都市マスタープランは、骨子案にもあるように、20年後を見据えた計画とする必要があります。前回の都市マスタープラン改定は、バブル崩壊の後の時期でした。これまでの20年間とこれからの20年間は、経済状況、社会情勢などが大きく異なってきます。今回の都市マスタープランにおいては、20年後の将来イメージをより意識し、これまでとの違いをより打ち出して

いくことが必要なのだと考えます。例えば、「都市機能の強化を図って」という項目がありますが、「都市」の前に何らかの修飾語を入れないと、意味が曖昧となる印象を受けます。また、総合計画に掲げられる将来都市像である「しあわせ創造都市 いせはら」を、都市マスタープランにおける将来都市像としてそのまま用いるのではなく、より具体的な言葉を掲げるべきではないかと考えます。骨子案の中では、「成長」「地域間競争を勝ち抜く」など、表現については、これらのコンセプトが果たして今後20年間の時代とマッチした考え方であるのかについては、検討の必要があると考えます。近年では、地域連携という流れもある中で、果たして「地域間競争を勝ち抜く」と言い切ってしまうと良いのかという部分を確認したいと思います。例えば、成熟、維持、安定といった言葉も重要なコンセプトになり得るものと考えます。「成長」という言葉を使うにしても、表現がよりソフトになるように、修飾語を工夫すべきであると考えます。

委員 「成長」「成熟」といった、国の施策などの中で人口増加の文脈で用いられることが多い言葉は、意味合いに注意して用いるのが良いと考えます。確かに、資料にあるような整理の仕方も一つの考え方としてあると思います。しかし、基本方針の中に成長戦略がなければならないという考え方にとらわれずに、再整理を行っていくのが良いのではないかと考えます。

座長 例えば、資料4ページから5ページの表現について、成長戦略をもっと絞り、選択と集中を図っていくのが良いのではないのでしょうか。

委員 骨子案でも将来人口フレームという形で触れられているように、人口は増えないという前提で都市マスタープランを考えなければならないと思います。骨子案のいう「成長」が、何のための成長なのかという点が課題となるものと考えます。

委員 骨子案中の「基礎戦略」は、むしろ「成熟戦略」とした方が整合が取れるのではないのでしょうか。

座長 「基礎戦略」については、別の言葉を検討するのが良いでしょう。委員の意見の中にもありましたが、今日では、地域連携、都市間連携が重要視されつつある状況があります。社会状況、経済状況などにもっと触れつつ将来都市像に繋げていく方が良いのではないかと考えます。

- 委員 「基礎戦略」には守り、「成長戦略」には攻めのニュアンスが感じられます。そのニュアンスどおりの用いられ方なら良いのですが、違う場合には、再整理をするにしても、構成レベルで大きな変更が必要になるものと考えられます。
- 委員 この「成長」という語には、物質的、量的な成長のイメージが見えます。しかしながら、今後は、質的な成長が求められる時代となると考えられるので、用語の用い方を検討する必要があるのだと考えられます。
- 委員 「都市間競争」という言葉もそうですが、周囲から突出しようとするニュアンスを出すのは避けた方が良いのだと考えられます。周辺自治体との関係を意識した中で、伊勢原の特性を生かしながら発展していくという方向性を見せていくのが良いのではないかと思います。骨子案を見ると、やはり都市マスタープランという性質から、ハードの面が強く押し出されている様に見えます。総合計画では、「しあわせ創造都市」という将来都市像を掲げていることから、都市マスタープランでは、その「しあわせ」をどのようにして作るのかという部分を押し出していく必要があると考えられます。「しあわせ」の目玉、推進力が明確に打ち出せていないと感じられます。
- 座長 基本方針3の基礎戦略では、今のところ、ハードについての記述しかありません。ここには、安心安全という観点から、教育、福祉などのソフトの面を盛り込んでもらいたいと思います。
- 委員 質問になりますが、資料3ページの「インフラ整備や公共サービスの供給の効率化」という部分は、「インフラ整備」と「公共サービスの供給」が「効率化」に修飾されていると解釈して良いのでしょうか。インフラ整備の効率化と読むと、施設を増やすという意味合いにも受け取れますが。
- 事務局 施設を増やすという意味合いではありません。また、具体的な取組については、テーマ別や地域別構想などで整理したいと考えています。
- 委員 この骨子案は、将来都市像、基本方針、戦略と、考え方が多層構造過ぎるのではないのでしょうか。戦略の部分の検討が必要ということで第5次総合計画の将来都市像とリンクさせているのだと考えますが、都市マスタープランにおける将来都市像と第5次総合計画の将来都市像を、無理に一致させる必要もないのではないのでしょうか。むしろ、基本方針に掲げる5つが、この都市

マスタープランの基本的な目標であるという整理をしても良いのではないのでしょうか。

委員 5つの基本方針を打ち出した後に基礎戦略や成長戦略の話に入る方が、整理が付けやすいのではないのでしょうか。

委員 それとあわせて、将来フレームの部分についても、より明らかにしていくべきなのだと考えます。「基礎戦略」と書くにせよ「成熟戦略」と書くにせよ、費用はかかるわけですし、その部分を考慮しないことには、費用の捻出もできなくなります。成熟への投資をしていくための発展・成長という一面を盛り込むようにした方が、現実性が高まるものと考えられます。稼ぐ部分と充実させていく部分を切り分けて検討していくということが、今後の20年間では重要な意味を持つてくるものと考えます。

委員 先日、景観計画が策定されましたが、その中では、農村景観の保全についても触れられていたかと思います。農村景観は、農業の担い手がいなくなると維持できなくなってしまいます。農村と都市の在り方を検討するに当たっては、経済を考慮しつつ、どのような方向へ向かうのかが重要となるものと考えます。「成長戦略」は、むしろ「発展戦略」と呼ぶべき内容なのではないのでしょうか。持続可能な発展を意識した構成とするのが良いものと考えます。

委員 持続可能性という観点が非常に重要で、それが最終目標になっていくのではないのでしょうか。

座長 ただいまの部分を整理しますと、成熟のための投資、そのための持続可能な都市という目標を据えて、その下に、選択と集中による成長戦略と、成熟戦略を位置付けるという構成になるのではないかと考えます。

委員 今回の都市マスタープランで、本当の目玉となってくるところは、伊勢原北インター周辺地区についてだと思います。ロボット産業特区の話もありますが、この地区には、伊勢原の個性が前面に出るようなまちづくりの方針を立てていく必要があるのだと考えます。

事務局 この地区については、ロボット産業特区の制度の活用も一つの選択肢としてあり得ます。ただし、その選択肢ただ一つのみで検討をしていくということではなく、様々な可能性を考慮した中で、検討を進めていくべきものである

と考えられます。都市マスタープランは、市の都市計画を考える上での基軸となってくるので、将来を見通した中で、さらに、選択と集中の観点で精査し、盛り込むべき内容を整理していく必要があると考えます。

委員 大山・日向地区については、どのようにして人が集まる観光拠点としていくのでしょうか。現状の取組のままでは、これまで以上の効果を上げていくのが難しくなってくるのではないのでしょうか。

事務局 都市構造を検討していく中で地域ごとに役割を持たせていくということも考えられます。その役割に見合うべき拠点としていくために、様々なテーマによるまちづくりのアプローチができるのだと考えます。例えば、駐車場の整備などのハード面についてや、景観などのソフトの部分でテーマにしたまちづくり、また、都市計画等の様々な制度を活用した定住人口の安定化を図っていくなど、その地域をどうしていくのかという部分をテーマ別に盛り込んでいくことも想定しています。

委員 都市マスタープランの位置付けについてですが、伊勢原北インター周辺で今後何らかの事業を行うことになった場合には、その事業の個別計画が作られるということによろしいのでしょうか。それとも、都市マスタープランそのものが事業の計画として位置付けられるのでしょうか。

事務局 事業が行われることになれば、その個別計画が立てられることになります。北インター周辺では、地権者によるまちづくり研究会が発足しており、土地利用について検討が進められています。

委員 骨子案には、「環境にやさしい都市」との記述があり、その下には「CO<sub>2</sub>の排出量を減らす」という記述があります。一般論として、環境にやさしい都市を目指すに当たっては、「CO<sub>2</sub>を減らす」では、少し表現が弱いものと考えられます。

座長 それでは、骨子案の後半について、事務局から説明をお願いします。

### 【事務局説明】

委員 先ほども意見として出たように、やはり構造が多層的すぎるのだと考えられます。層が増えすぎると、全体構想としてのイメージの輪郭が曖昧になって

きます。もっとまとめてしまっても良いのではないかと感じられます。また、ハード面に関する記述が多く、ソフト面に関する記述が少ないという点で、これまでとの違いがうまく打ち出し切れないものになっているのかもしれませんが。例えば、資料5ページの市民協働に関する記述は、「市民」ではなく、例えば「市民、行政、事業者、NPOなどとの協働」というような表現とした方が良いのではないのでしょうか。

座長 骨子案の体系図は、これまでのワークショップを基にまとめられたものとなっていますが、この中にあるものについて、どのように優先順位を付けていくのかという部分が、より見える形の全体構想としていく必要があると考えられます。

委員 この体系図は、これまでのワークショップで議題に上がったものが並んでいますが、記載内容に濃淡があるように見えます。これらをより整理をしていくことが必要なのではないのでしょうか。

委員 例えば、交通に関する項目は、もっと全体に網羅的に入っていた方が良く考えます。交通の利便性を高めるという方針を立てたととしても、果たして本当にこのような交通サービスや道路を維持していくことは可能なのかという点について、検討の余地があるものと考えられます。財政上の制約など様々な視点から方針の検討をしていく必要があるものと考えます。それを踏まえて全体方針を振り返ると、将来フレームの部分では、将来人口に限らず、財政状況や高齢化率などにも触れる必要があるのではないのでしょうか。

委員 同感です。この骨子案は、形式的に整理され過ぎてしまったのかもしれませんが。将来の人口が何万人であったとしても、年齢別の人口バランスがどうなるかによって、どのような方針、施策を打ち出していくべきなのかは、大きく変わってくるものと考えられます。また、それらについて市民、行政、事業者などがどのように連携して取り組んでいけるのかという部分を検討していく必要があるものと考えます。

座長 まだ検討段階であるという部分もあるのだと思いますが、この骨子案ですと、戦略が見えにくく、打ち出すべき目玉などが明確に見えてこないものになっているように感じられます。どのような構成にすれば改善されるかという部分を考える必要があるものと考えられます。

事務局 本日の会議を受けて修正を加え、来年度は、全体構想の骨子案を都市計画審議会に諮り意見を求めていきたいと考えています。

委員 事務局が会議の冒頭で、骨子案の内容について地図を示しながら説明をされていたのが理解しやすかったと思いますが、そのように地図をもっと活用したまとめ方はできないのでしょうか。

委員 テーマ別構想などについても、地図を付けた資料を用意してもらえると、見えてくるものが多いものと考えます。また、本日の議論で気になった点があります。骨子案は、どうしても車社会を前提とした構造に見えてしまいます。持続可能な都市を目指して行くには、車や自転車に乗れない人々を意識する必要があります。徒歩圏をどう育てていくのか、高齢者がどの地区にどれくらいの人数がいるのかといった点を検討していく必要があるように感じられました。

事務局 来年度は、地域別構想についての検討を始めていくこととなりますが、その中で出てきた意見も、全体構想の中にフィードバックさせていくこととなりますので、地域別構想の検討を進めていく中でも詰めていきたいと思っています。

座長 本日も活発な議論をありがとうございました。

【閉会挨拶】都市総務課長

以上